

平成 29 年度における歴史民俗資料館の管理運営に対する評価票

所管課：教育委員会 生涯学習推進課

評価対象期間：平成 29 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日

評価委員会開催日：平成 30 年 11 月 8 日

1 指定管理者

指定管理者	地域文化財研究所・ケントクグループ
指定期間	平成 28 年 4 月 1 日～平成 33 年 3 月 31 日（5 年間）
施設概要	発掘による埋蔵文化財や、市民から寄贈された農具、民具などの民俗資料が多くあることから、これらを収蔵し、展示、公開するとともに、長年にわたり伝えられてきた民話の紹介などイベントの開催やリーフレットの発行などにより、特徴ある郷土の歴史、文化をより深く理解し、誇りと親しみを感じてもらうことを本旨とする。
指定管理料	11,176,000 円（平成 29 年度）

2 管理運営の内容

項 目	29 年度の状況
運営状況	（１）平等利用の確保 ①職員に対する接遇教育や、案内資料の整備、ミーティングを通じた意思統一などにより来館者への平等で均一なサービスの提供に努めた。 ②車椅子で来館の方は介助者と来館されるため、職員は介助の妨げにならないよう配慮した。障がい者が使いやすい共用トイレがあるので、トイレ使用するだけの方も多く、公共施設としての役割を果たした。 （２）自主事業の展開 ①市との共催も含め、施設の特色を生かしたイベントを重点に計画し、大人向け有料講座「考古学講座 歩いて学ぶ考古学講座」など各種イベントを年間計 21 回開催した。文化財フィギュア（土器、埴輪、仏像等）のガチャガチャを設置した。 （３）施設の情報提供 ①ポスター、市広報誌、当館 HP などにイベント情報を掲載。「馬を介在されたメンタルヘルス研修会」で館長が講演し対外 PR を行った。 （４）安全確保対策 ①安全性の面から、劣化により剥がれていた 2 階研修室床の前面張替えを行った。 ②災害の際、緊急ネットワークが機能するよう緊急連絡先の掲示などを行った。
維持管理状況	（５）保守点検 ①各設備の稼動状況に合わせた最適なメンテナンス計画を立て実施した。 ②民俗資料展示室と本館の継ぎめに発生した雨漏りの修繕。 ③落雷により故障した NTTFAX 回線送受信アダプターの交換。 ④A3 ノビプリンターの故障による交換。 ⑤職員による蛍光灯交換、機器の状況点検など職員を動員した効果的な維持保全に努めた。 （６）清掃業務 ①通常の清掃業務に加え、自主的に館周辺の草刈や清掃を実施した。 （７）警備業務 ①通常の機械警備に加え、災害やトラブル発生の際、緊急ネットワークが機能するよう緊急連絡先及び緊急連絡対応体制の掲示を行った。 （８）環境への配慮 ①年間を通じた空調温度の見直し、ＯＡ機器の適正使用、こまめな消灯の実施など、環境保全の推進と経費削減に努めた。

	②ごみ箱の共用化、種類別の設置などによりごみの分別と少量化に努めた。								
利用状況	今年度は、生駒市ふるさとミュージアム、群馬県立歴史博物館、下関市立考古博物館へ教育委員会が遺物を貸し出すなど、市内はもとより市外からも来館者があった。 来館者には、指定管理者職員の説明でゆっくりと見学していただき、四條畷の歴史を広くPRすることができた。また、例年と同様3学年の「昔のくらし」の校外学習で畷古文化研究保存会の協力を得て、児童たちが実物に触れる体験学習を実施した。 前年度と比較し、開館日数が減少する条件のもと、学校・保育所利用と個人の利用が増加したことから、利用者数は全体で4.9%の増加となった。 <table> <tr> <td>・学校・保育所</td><td>903人(24.7%増)</td></tr> <tr> <td>・一般団体</td><td>1,933人(0.1%減)</td></tr> <tr> <td>・個人</td><td>5,973人(4.7%増)</td></tr> <tr> <td>合計</td><td>8,809人(4.9%増)</td></tr> </table> ※開館日数 274日(7日減)	・学校・保育所	903人(24.7%増)	・一般団体	1,933人(0.1%減)	・個人	5,973人(4.7%増)	合計	8,809人(4.9%増)
・学校・保育所	903人(24.7%増)								
・一般団体	1,933人(0.1%減)								
・個人	5,973人(4.7%増)								
合計	8,809人(4.9%増)								
収支状況	当年度収入11,414,972円(指定管理料収入:11,176,000円、自主事業収入:238,972円)に対し、支出11,395,589円で、収支は19,383円の黒字であった。								

3 利用者へのアンケート調査

項 目	29年度の状況
調査の実施内容	対象：施設利用者 調査期間：平成29年4月1日～平成30年3月31日 調査方法：アンケート用紙と箱を展示室に設置。自由に記入してもらう 回答件数：195件
調査の結果	どちらから来館したか：市内102人(52%)、市外93人(48%)。 他府県として京都府・兵庫県・奈良県・神奈川県あり。 スタッフの対応：「満足」が95% 「やや満足」を含めると100% 展示の解説への対応：「分かった」が73% 「だいたい分かった」を含めると100%
主な苦情・意見等	【意見・要望、イベントの希望など】 ○ 小学生以下 ・昔の授業をしてほしいです。(市内小学生の女性) ・いろんな昔の物のカードを作りたい。(市内小学生の男性) ・昔のしじょうなわての写真がたくさん見れるイベント(市内小学生の女性) ○ 中学・高校生 ・新しいエリア。(市内中学・高校生の男性) ○ 19～39歳 ・丁寧に、ムラなく解説いただき、ありがとうございました。古墳関係をめあてに来ましたが、それ以外についても興味がわいてきました(大阪市内の男性) ・小学生にとっても有益な博物館です。ずっと残してください。(市内の男性) ・展示している内容はすごいものばかりなのに、まわりへのアピール(市内市外問わず)が少ない気がします。子供に言われて来ましたが、大人になってわかる良さもあるので情報をしてほしいです。いや冗談ぬきで四條畷すごい！

	○ 40～59歳 ・中世史・近現代についても少々・・・館長さん長時間ご丁寧に有難うございました。(京都市の男性) ○ 60歳以上 ・原始・古代史の宝庫の所ですね。全国に発信して生々とした文化を知らせてほしいと願っています。(神奈川県茅ヶ崎市の女性) ・有意義な一時でした。特別展次年度も楽しみにしています。(市外の女性)
--	---

4 施設の評価

管理運営の総合評価	○5 ●4 ○3 ○2 ○1
講 評	来館者へのアンケート調査結果によると、スタッフの対応については100%の方が「満足」・「やや満足」という結果であった。また展示の解説への対応は100%の方が「分かった」「だいたい分かった」という結果で、ほとんどの人が展示解説内容を理解できていた。 施設の運営面では、前年度と比較して開館日数が減少する条件のもと、学校・保育所利用と個人の利用が増加したことから、利用者数が全体で4.9%の増加となっており評価できる。HPやポスター掲示などの広報活動などにより、市内はもとより市外からも来館者があった。一度の来館で終わらないよう、広報活動をさらに多方面へ促進してもらいたい。来館者には、指定管理者職員の説明でゆっくりと見学していただき、四條畷の歴史を広くPRすることができた。市が実施する特別展などへ全面的に協力しており顕著である。現スタッフの後継の育成も念頭に置いた運営を推進してもらいたい。また、例年どおり3年生の「昔の暮らし」の校外学習で、畷古文化研究保存会の会員の協力を得て、子どもたちが実物に触れる体験学習を実施したことは、子どもたちへ郷土の歴史、文化に触れる機会を提供するという点で今後とも継続していただきたい。 施設の管理面では、施設内にとどまらず周辺の清掃も実施し、周辺環境に配慮している点が顕著である。 以上の内容から「計画内容をやや上回るため努力している」と判断し、評価を「4」とする。

(参考) 評価の基準

- 5 計画内容を上回る結果（担当部局として非常に満足できる結果）
- 4 計画内容をやや上回る結果（担当部局として満足できる結果）
- 3 計画内容どおりの結果（担当部局として妥当と判断する結果）
- 2 計画内容をやや下回る結果（担当部局として不満が残る結果）
- 1 計画内容を下回る結果（担当部局として非常に不満が残る結果）